

令和7年度第1回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 令和7年7月28日（月）10時00分～12時00分
- 2 場 所 長崎市役所 8階 庁議室
- 3 出席者 **【市長】**
鈴木市長
【教育委員会】
西本教育長、北爪委員、小原委員、北川委員、田崎委員、松尾委員
- 4 事務局 **【市長部局】**
企画政策部長、同部政策監、都市経営室長、都市経営室主幹
【教育委員会事務局】
教育総務部長、学校教育部長、教育委員会総務課長、教育委員会総務課課長補佐
- 5 次 第
 - 1 開 会
 - 2 内 容
 - （1）教育大綱の策定に係るスケジュールについて
 - （2）第3期長崎市教育大綱（素案）について
 - 3 閉 会

6 議 事 以下のとおり

(1) 教育大綱の策定に係るスケジュールについて	
	(意見なし)
(2) 第3期長崎市教育大綱(素案)について	
委 員	(「初めに」～「人づくりの基本姿勢」について) (意見なし) 【めざすすがた1「心と身体を育み、自ら学び、考え、行動するひと」について】 まず8ページの目指す姿の説明の段落について。 「確かな学力、豊かな心、健やかな『体』」と記載してあり、「生きる力」の説明で確かにこう書かれているが、このページの一番上では「目指す姿1 心と『身体』を育み」と書かれている。 からだを表現するときに、身体論や身体文化論の世界では「体」と書く物質・物体等を意味(例:「体の60数パーセントは水分だ」など)し、ひらがなで「からだ」と書いたときには、その生身の体を意味(例:「今日はからだの調子が悪い」など)し、「身体」と書いたときは、ひらがなの「からだ」に文化を身につけたときに「身体」という文字を当てることとなっている。 言葉遣い、挨拶、ルールなど、人間の作ったものはすべて文化であるため、そういうものを身につけた「身体」と読ませておりますので、そこを修正してもよいのではと思う。単に物質的な体ではないという意味を込め、必ずしも文科省の「生きる力」の表現に合わせる必要は、ここではないのではと思う。
事 務 局	いただいたご意見を踏まえ、内部で検討させていただきたいと思う。
委 員	8ページの一番下の部分で新しく挿入された「学校と地域の様々な施設」については、とてもいいものが入ったと思う。 長崎市の基本構想がまちづくりの基本理念で「つながりと創造」と書いてあるので、「つながり」というキーワードが表現されていると思う。 そのつながりを具現化してくれたのが、新たな記載の部分であり、これから具体的な取組みを考える中で、図書館は本の貸し出しや閲覧をするだけでなく、図書館で人を育てるような提案や組織を作っていくことも考えてよいと思う。 公民館も一緒に、公民館は文化を提供するだけでなく、さらに人々が集ま

	ってそこが地域の中心になると良いと思う。最近お年寄りが行くところがなく、スーパーなどに行かれることもあるというが、そういう方が公民館に来る等することで、つながりになる。科学館なども一緒だと思う。 ですから、ここの文章は「学校と地域の様々な施設」という記載ではあるが、民間の企業や団体、またはボランティア団体など全部包含されているという考えで進めていただきたい。
事務局	まさに連携という視点は長崎市でも今重点的に取り組んでいるところ。委員がおっしゃったように、「学校と地域の様々な施設」という記載には、すべてを含めて、地域全体で育てるという視点があり、それを教育施策のベースにしていきたいと思う。
市長	ということは、その地域という表現に企業なども含めているという認識でよいか。
事務局	そう考える。基本的には6ページの「人づくりの基本姿勢」の表現の中にあるもので、「人づくりは学校や行政だけでできるものではありません」という表現については、まさに民間の企業、各種団体も含まれているものと考えている。
市長	まさに今、委員からご指摘のあった内容というのは大切な視点だと思っており、今事務局からもあったとおり、市全体として官民連携というのは力を入れて進めているところ。そういう中で、やっぱり教育において企業の果たす役割というのは今まで以上に重要になってきていると思う。 表現に含むという考えではなく、何か明確に表現したほうが良いと思う。
委員	先ほどの意見に関連して、8ページの3つ目追加された部分について、「幼児期からの教育を通じて」というようなのが周辺にある中で、学校に限定せず、保育所・幼稚園・こども園等が入るような表現に、「学校」の部分をもう少し幅広くしたほうが、バランス取れると思った。 次に、9ページのところの目標としては書いてある通りで、全く異論はないが、1つ目の習得した基礎的な知識・技能の部分について、習得を前提とするのではなく、身につけるというところは非常に大事だと思う。基礎的な知識・技能を習得することもきちんと力を入れるということもはっきり記載してもいいのではと思った。

事務局	まず8ページの方、学校だけじゃなくというところについては、ご指摘のとおりだと思うので、検討したい。9ページの方も同じように、表現についてまたさらに具体的にわかりやすいように検討したい。
委員	9ページの3つ目だが、「多様な情報にあふれる中で」というところについて、学ぶ・知識を得て、最終的にやっぱり「選択をしていく」ことが大事だと思う。現在、情報が増えている社会の中で、適切な選択をしていくという表現があったほうがいいと感じる。
事務局	委員から指摘のあった、多様な情報の中での選択ということについては、具体的に表現の方を考える。
教育長	表現の問題で、9ページで「人を育てます」という表現を「人を育みます」に変えていくということであれば、4ページの「はじめに」の中で「人を育てるための」という部分も「人を育むための」の方がいいのかなと思う。
市長	これに関連してだが、語感として「人を育む」というのがあまり聞きなれない表現なので、正しい表現なのか、
事務局	「人を育む」という言葉を使うタイミングというのは間違いなく存在するが、教育大綱における表現として適切かどうか、この場で意見などをいただけると、参考にしたいと思っている。 言葉自体は使うもので、「育む」という言葉は、大切に守りながら育てていくというニュアンスがある言葉。この教育大綱上、その「育む」という言葉のニュアンスが合致するものかどうかということは、議論をしたいところ。
市長	「心を育む」「体を育む」という表現は合致すると思うが、「人を育む」というのは、普段使わない言い回しだと思う。
事務局	事例があったのは確認をしているが、意見を踏まえて、もう一度その部分を調べて、適切な表現かどうかというところで確認をしたい。
委員	先ほどの教育長の意見も最もだと思いつつも、後で出てくる語尾の「何々を育みます」というのは、自然で違和感もないと思うが、4ページの方は場合によっては統一しなくてもいいのかなと思う。後の「育みます」のと

	ころと、ここは「育てる」のままにするということも 1 つの考えだとも思う。検討いただければ。
委 員	10 ページの「安全・安心で平等に 学ぶ環境」について、「平等」とはすべての人々が同じ扱いを受けること、「公平」は人によって違う。 例えば先生が児童生徒に声かけるときに、朝「おはよう」って言うだけでもその子は満足する子もいるし、何度もいろいろ声をかけないと満足しない・納得できないということもある。やはり量ではなくて、この個人の満足度・納得度から考えると「公平」の表現のほうがよいと思う。
委 員	今の意見に同意ではあるが、私は以前、文科省からの文章で同じような「平等」という言葉が使われていて、こういう意味で使うのかと驚いたことがあるので、もし「平等」を使っている文科省の文章があるのであれば、私は「平等」のままがよいのではないかと思う。
市 長	英語で言えば、「平等」は「イコール」で、「公平・公正」は「フェア」だと思うので、そのニュアンスに差があると思う。 だから、文科省はどういう趣旨で使っているかを確認した上で、市としてどのような意味を込めたいかも踏まえた上で最終的に決めていくといいと思う。
委 員	【めざすがた 2「生涯を通じて、学び続けるひと」について】 11 ページの方で「意欲的に」というのを削除されて、12 ページの 1 番のところに「学び続ける意欲を持ち」という表現が出ているか、意見が違っているように思うが、意図を聞きたい。
事 務 局	これは目指す姿、大きな話のところになるので、「意欲的に学び続ける」ということで対象者の間口が狭まると考えている。 その具体的な取組み内容の 1 つとして、「学び続ける意欲を持つ」ということは大事だということで、すみ分けをして整理している。
委 員	同じく 11 ページに「ウェルビーイング」という表現について、下に注釈があるが、実際の大綱にもこういう注釈を載せるという理解でよろしいか。
事 務 局	これに限らず、特にカタカナ言葉については、注釈を入れていきたいと思

	う。
委 員	11 ページの右側のところで、第 2 文のところの末尾が「求められています」になっているが、誰が誰に対して求めているのかを考えると、少し違和感がある。主語は省略されているから見えないが、何か国から市が求められているから取り組んでいると読めてしまいそうなので、「求められている」ではなく「大切」などの表現の方が良いと思う。
事 務 局	いただいたご意見を踏まえ、表現を変更したいと思う。 【めざすすがた 3「多様性を認め合い、思いやりの心を持ち、支え合って生きるひと」について】 (意見なし) 【めざすすがた 4「国際性豊かで、持続可能な世界の実現に貢献するひと」について】 (意見なし) 【めざすすがた 5「被爆の実相を継承し、平和の実現に貢献するひと」について】 (意見なし) 【めざすすがた 6「長崎を愛する心を持ち、まちを支え、未来へつなぐひと」～「長崎市教育大綱の位置付け」について】
委 員	18 ページの 2 番目の項目に、「長崎に暮らすことを楽しみ」と表現されている部分について、ちょっと表面的すぎないかなと感じた。あと取組みの内容の 6 番目にも「長崎というまちの面白さを見つける」というようなところは「暮らすことの楽しさを実感し」など、より地に足のついたような具体的な文言がよいのではと思う。
委 員	新しい項目を付け加えていただいてありがたい。 20 ページの 6 番の表現は行政文書としてはすごく斬新な試みだなと思ったのですが。「長崎というまちの面白さを見つけ」、この「面白さ」「まちを楽しむ」「さらなるまちのワクワク」などという表現は大丈夫か。

事 務 局	実際に検討段階でもそこは、チャレンジ的な表現であったが、やわらかい表現を使ってはどうかといったご意見があり、今はこの案でお示しさせていただいているところ。 おそらく違和感があったための発言だと思っており、一部抽象的な表現かなという意見もあったため、こちらの表現を再度検討させていただきたいと思う。
委 員	私としてはチャレンジ精神で、面白いと思う。賛成している。
市 長	「ワクワクを作る」という、述語をどう表現するかというところも関係があるかもしれない。 「ワクワク」とはそれ自体が目標や最終形ではなく、期待感だと思う。そう考えると、何か期待感に繋がるような新しいことにチャレンジしていくという意味を込めたのでは。 そうした意味を込めるのにこの文言で表現できているかどうか。何かもう1つ欲しいようにも感じる。だからそういう期待感を作り、盛り上げていき、それを行動につなげていく、などと考えていくと、「ワクワク」だけの記載では足りないのではないかと思う。 例えば「ワクワク」という表現を使わないのであれば、「まちの強み」や「味わい」などという言葉になるのでは。
委 員	こうした計画で、こういった表現というのはあまりなく、通常だったら「まちの面白さ見つけ」が「再発見」で、「まちを楽しみ」は「まちをみんなで楽しむ」、「まちのワクワク」は「新しいまちの魅力を作る」という表現になるのでは。
教 育 長	通常計画であれば「新たなまちの魅力を創造する人」や「新しいまちの魅力をつくっていく人」とかいう表現が一般的なでは。
市 長	実際、事務局としてはこの部分にどういう意味を込めたかったのか、その趣旨・意図を説明していただければ。
事 務 局	教育長の言う通りとおり、魅力という趣旨で記載した。「面白さを見つけて楽しむ」のも「ワクワクするまち・ワクワクする新たなものを作る」のも「ワクワク」で、そうした全部に係るものという考え。表現はもう一度検討したい。

委 員	19 ページの 1 つ目について、追記までの必要はないが、この中に含まれる「文化」の表現に「祭り」などがあると思う。祭りは地域や人をつなぐものだと思っており、特に長崎はその祭りが重要な意味を持っていると思うので、この「文化」の表現には、そうした視点があるということを、考えておいていただければと思う。
事 務 局	ご指摘のとおり、長崎の文化における祭りは重要なものであると考えているので、そういった意味も含めて具体的な取組みにもつなげていきたい。 【全体を通してのご意見】 (意見なし)
その他	
委 員	水泳教室は、夏休みということもあって参加する子どもの数も特に多いイベントなので、今後も続けていってほしい。 これをさらに展開することを考えると、今不登校が 1 つの問題になっているが、色々な施設で「ギフテッド」のような、何かの分野に特化して子どもの特性を伸ばす場所があればいいと思う。 例えば、今スタジアムシティで、パソコンと ICT の技術を学べるところがあり大学も入っているが、そうした場で、ICT 技術・パソコン技術を、卓越して伸ばしていく子どもであるとか、例えば恐竜博物館で週 1 回とか月 1 回恐竜博士を育てる教室をしたり、また、恐竜博物館は中心部から遠いので参加のための公共交通の運賃は市が出すなどして、子どもの興味がある分野を幼児期、小学校の学童期から伸ばしていく長崎の専門家育成事業のような形式で行うとよいと思う。 そういうものがあれば、長崎では恐竜博士になれますよとか、長崎に住めば子どもたちが将来エンジニアになれますよとか、「長崎に来たらこんなことが学べます」「長崎の子どもはこんな立派な、学びの環境があります」という特徴にもなっていると思う。
市 長	まず水泳教室について、長崎にとって水泳教室の意味は大きく、出島以来の伝統がありますので、何世代にもわたって受け継がれているもので長崎の伝統・強みとして生かしていきたいと思っている。 教えている方も 80 歳を超えても活躍している現役の指導員もいる。水泳は生涯スポーツなので、小さい子からお年寄りまで皆で楽しめるスポーツでもあり、健康にもよい。ぜひ今後も盛り上げていきたい。

	それから「ギフテッド」みたいなそういう何かに秀でた子どもをさらに伸ばしていくという観点について、とても大切だと思う。色々な形でそうした場づくりができればいいと思う。 どういう形でできるかについては知恵を出しながら、学校教育でできるところはやっていただきつつ、学校教育の中ではいろんな制約もあると思うので、官民連携でできればと思う。 この件について事務局から補足などはあるか。
事務局	確かにギフテッドとのそういった才能のあるお子さんをどう伸ばすのかという視点とちょっと外れるかもしれないが、大学との連携もあると思う。「tec-nova Nagasaki (テクノバながさき)」として、少子化対策の一環で長崎らしい教育の充実に取り組んでおり、例えば普通学校で経験できないコンピューターとかロボット体験できる学習をしている。機会を皆さんに周知して、たくさんの子どもに参加してもらっている。 小学校5、6年生、中学生、高校生を対象に、スタジアムシティを借りたり大学の場所を借りたり、民間と連携しながらそういう機会を少しずつ作っていく。もちろん市役所だけでは難しいので、大学や民間企業、それぞれの得意分野を生かしながら取り組んでおり、これからそれらが広がるように、教育委員会等とも連携しながら取り組んでいきたいと思う。
委員	委員の方から民間企業という話が出たが、今僕たち民間企業は、選ばれないと生き残っていけない時代になってきていて、これは採用面で特に顕著になっている。だからそういった、地域を盛り上げていく若者が地域を離れているというのは民間企業も要因のひとつであると思う。 そこに魅力ある企業があれば、人は集まり、人は残る。いい企業もたくさんあるので、そういったところに協力を要請すれば、企業側も魅力を発信したいと考えているため企業の意見とも合致すると思う。
市長	先ほど申し上げたとおり、官民連携の推進もまだスタートラインに立ったばかりではあるが、いろんな取組みを始めていて、教育・子どもを育てるという観点で取組みも始めているところ。民間企業との包括連携協定などの中でも子育て分野での連携も行っている。 また新しいこともどんどんできればと思うので、企業の皆様にお手伝いいただける部分があれば、お願いしたい。

事 務 局	今年の長崎大学の前期から始めた取組みで、企業の皆さんの現場に大学生が行って、研究をして発表するというような取組みをしている。おっしゃったとおり長崎にも、いい企業がたくさんあるのでそういう機会としてもよいと思う。 また、7月15日に官民連携の総合窓口をインターネット上に作ったので、「長崎市が提示する課題に協力していただくパターン」と「企業側から課題を提案いただくパターン」と2つのパターンで受け付けられるようにしている。窓口のほうにもどんどんご提案いただければと思う。
-------	--